

PALTAC、三菱食品と物流における協働取り組みを始動

～異業種連携による効率的かつ持続可能な物流の実現に向けて～

株式会社PALTAC(本社:大阪府大阪市、代表取締役社長:吉田 拓也、以下「PALTAC」)は、三菱食品株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:京谷 裕、以下「三菱食品」)と、持続可能な物流の構築及び両社における物流事業の一層の拡大を目的とした連携・協働に向けた基本合意を、2025年1月21日に締結しましたのでお知らせします。

物流の経営資源を両社で共同活用し、
サプライチェーン・物流網の融合に挑戦



《目的と意義》

PALTAC は、化粧品・日用品、一般用医薬品(以下「日用品等」)業界の中間流通におけるリーディングカンパニーとして、また三菱食品は食品業界の中間流通におけるリーディングカンパニーとして事業展開しております。それぞれ業界は異なるものの、ドラッグストア・コンビニエンスストア・スーパーマーケットなどの小売業様との間で商流・物流を担い、互いに全国規模で事業を展開していることから同一の販売先も多く存在しております。しかしながら、これまでの流通においては「日用品等」と「食品」とでは、異なるサプライチェーン・物流網が構築されており、同一の小売業様の物流拠点や店舗に対しても、別々に商品を届けることが業界の常識となっていました。

また、日本国内の物流業界は、労働人口の減少やいわゆる物流の 2024 年問題などにより、トラックドライバーの担い手不足をはじめとする大きな環境変化に見舞われており、従来通りの方法で全国の流通網を維持することは困難な状況になりつつあります。

こうした環境認識のもと、PALTAC と三菱食品は、業界のリーディングカンパニーである両社が業界の垣根を超えて共に連携・協働し、物流効率化を図ることが、国内物流業界の持続可能性を高める一助となるとの共通の認識に至りました。今後、環境変化に対応できる持続可能な物流の構築・実現のために、両社の持つ物流資産やノウハウなどの相互利活用について、両社間で具体的に協議・検討してまいります。

《対象分野》

本基本合意において、まずは 4 つの協業テーマを定め、実現に向けて協議・検討を進めてまいります。

① 既存物流拠点の活用	両社既存拠点の空きキャパシティ有効活用
② 共同配送の推進	配送車両の空積・空車の共同配送による配送効率化
③ 共同物流センターの検討	新しいサプライチェーンモデルや最適な倉庫管理システムの検討
④ 物流 DX の共同研究	データ連携基盤構築、将来のマテハン設備・システムの共同研究

両社が運営する既存物流拠点(PALTAC: 23 拠点、三菱食品: 376 拠点)の有効活用や、手配・運行する配送車両(PALTAC:1,500 台/日、三菱食品:7,600 台/日)の共同配送により、一企業や業界別ではなし得なかった効率化を実現することを目指します。併せて、将来の物流を見据えた新しいサプライチェーンモデルの開発や物流 DX の実現に向け、双方が人材を投入しチャレンジしてまいります。

《将来に向けて》

PALTAC は、2024 年 5 月「つなぐ力で人と社会のミライを創る」をスローガンに掲げ、10 年程度先をターゲットとする「長期ビジョン」を策定し、将来に向けた取り組みをスタートしております。今回の三菱食品との取り組みは、長期ビジョンに掲げたマテリアリティ「ダントツNo. 1の生産性による常識の枠を超えた物流ネットワークの構築」を具現化する取り組みのひとつとなります。当社がこれまで築き上げた物流面の強みを活かし、業種や慣行を超えたネットワーク構築により「流通イノベーション」に挑戦してまいります。「人」や「モノ」そして「情報」など流通の多様なつながりを創出することで、生活者のみなさま、そして、社会に対して価値を提供し、当社の存在意義である「人々の豊かで快適な生活の実現」を果たしてまいります。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。
経 営 企 画 本 部： 嶋 田（TEL 06-4793-1090）
営 業 本 部： 佐 塚（TEL 06-4793-1075）